O CAFE
四級十キロに付
21$000
（サントス市場）

NAMBEI SHIMPO

（一）　第五十四號　昭和六年三月十二日（木曜日）

CAMBIO
日本 6$163
米國 12$450
亞國 4$350

南米新報
Propriedade e Direcção
Nanshu Sakairi
Redactor Principal
Tuguo Kishimoto
Av. B. Luiz Antonio
Caixa Postal 1243
Tel.2—46o6
São Paulo Brasil
Assignatura
Por Anno 30$
Por semestre 16$
Por mez 02$

多年の苦節に花が咲き
イジドロ將軍萬歲と
全市民の熱狂的大祝賀會
歡呼 拍手 人の海

過ぐる一九二四年聖州革命の總帥にして又今次大革命の大立てものイジドロ ロツペス將軍が 少將より中將に昇進されてリオ府から歸聖したのでサンパウロ市民は敬愛の熱情から將軍のために去る七日市内に大祝賀會を開催した

此日祝賀會場に當てられたラルゴ ダ セーヘは早くも定刻前幾萬の市民が雪霞の如く押し寄せこの國の爲めに多年風霜の苦節に獻身した將軍の高風に接せんと待ち構え 式場なるカテドラールの入口には美しく草花が盛り飾られ聖州執政官ジョアン アルベルト大佐大藏大臣代理マセドソアレス氏大司教代理マンフレド レイテ師等其他多數の政府大官達が 奇麗星のやうに居並んで將軍を迎へた

定刻午后四時ラツパの音りゆうりようと響きわたりイジドロ將軍は第三聯隊の第四騎兵大隊に儀仗され群衆の拍手歡呼裡に到着 定めの席に着くや數多の令孃達から花の雨を降り注がれ十九發の祝砲は殷々とイタペチニンガ原頭に鳴り響く

やがて五千有餘の民主黨員の旗行列一隊が練り込み そのうち市内で雄辯家を以て知られたマンフレド レイテ師が起ちサンパウロ百萬の市民を代表し四十分に亘りて祝辭演說をした

演說は擴聲機を通じて明瞭に聽き取られたが 舌端火を吐く大雄辯で愛國の赤心を披瀝してイジドロ將軍の人かくと功勞を讃へたもので 餘の雄辯は一語一語聽衆を狂喜せしめ拍手は萬雷の如く鳴り渡り 之れに答へて將軍は滿面歡びの色を浮べて起立し簡單に感謝の意を表し 五時半國歌奏樂裡に式を終り悉なく散會した

（寫眞は當日ラルゴ ダ セーの祝賀會場と イジドロ將軍）

矢崎千代二畫伯
奇禍に遭ふ
早速ドイツ病院へ入院

先きにノロエステ方面へ繪の旅に二ケ月を費し數多くの收穫をもたらして歸聖した矢崎畫伯は 之れを以てブラジル縱行脚を打切り愈々最近の便船を待つて日本へ立たうと出發準備中 去る七日午前十一時シグーデよりトランクを買ひ求めて自動車でジャルヂンアメリカの總領事官邸への歸途コンソラソン街を通つてアベニーダ エスタードに差しかゝつた刹那横合から現れた貨自動車と衝突し 爲めに矢崎氏の乘用してゐた車は激しく氏は積み込んだトランクで頭と腰とに打撲傷を負ひ早速バライゾのドイツ病院へ運ばれ應急の手當を受けたが 腰部をひどくやられたので腎臟を傷け出血甚だしき爲め同日午后大手術を受け目下引續き入院加療中であるが係醫師の談に依れば生命には別條無きも何分相當老齢者のことである

本社移轉

弊社は來る十五日より左記の箇所へ移轉仕るべく候

アベニーダ・ブリガデイロ ルイス・アントニオ 二六

（元の處の上に當る）

右につき社内取こみ居り候間 次號の發行は本月廿七日と相成るべく甚だ勝手にて恐縮に有之候へ共 此段御了恕被下爲度候

三月十一日

聖市 南米新報社

郵函 一二四三番
電話 二一四六〇六番

全國五万囚徒の
性の惱みを解決
思ひ切つた新行刑法

日本全國で約五万に近い囚徒の性の問題は行刑の任に當たるものゝ常に惱まされてゐる事柄であるが 近く改正される新行刑法ではこの問題についても思ひ切つた規定を設け多年の懸案を解決すべく司法省方面でも大乘氣であるすでに議に上つてゐる點は囚徒とその家族との面會に特に看守を遠ざけて 一定の自由の時間を與へること▲ならびに成績のよい決して逃亡のおそれなき囚徒に對しては 一年に一回くらゐ一週間もしくは二週間の賜暇を與へること▲それから出所期に近い囚徒に對する所外の散歩外出用便の許可などである

これ等のことは長く獄舍生活をして 世間から隔離されたものが いきなり世間で離されたがために起る

精神 上の打擊を緩和する目的も含まれてはゐるが自由接見や賜暇などゝ云ふのは主として性の問題に對するものである

隣人愛

田澤ゆすら

夢の樣に遠いもう十年も昔だ だが純眞で高尚な感銘を受けた時の思出は今だに私の腦裡に明らかに蘇つて來る

その頃兩親は健全であり家庭に物質の不自由はなかつたが 私は何か知ら靈魂上に大きな渴を感じてゐた

何んとなしに憂鬱な日が續くので登山でもしたら ちつとは面白からうと親達には「郊外の友人の所に遊びに行つて來る」と僞つて友人に贈る土産にソーメンなど用意して貰つて發した

男みに勇んで飯田驛から乘車したものゝ私の懷中には汽車賃以外にホンの僅少な小使錢があるばかりだつた

汽車は吉田口の停車場に着いたので私は下車して近所で餅を買つて登り始めた

長い〜裾野の光景は早くも都會生活に萎縮した私の心に生氣を與へた

四合目あたりからは兩側に杉の並木が全くつきて砂地の岩くれ山になる 五合目以上は天地の境界線であるが たしかに六根清淨な者でなければ登れないだらうと云ふ樣な感が深くなつた

追々風が加はり 電鳴しきりで石の雨が降り出した 冶ど登山不可能と陷つたから 觀念して五合五勺の石室に泊めて貰つた

嚴初の夜は宿賃も仕拂へたが翌日も雨が降つて登れないと云つて金を出して宿れば 譯 ゝ 駄目 と 云 ふ 樣 な 言 葉 を 聞 く 前 に 五藏機關は遠慮なく運轉を續けて寒さと餓とがヒタ〜と襲つて來た

慾も德もなくなつて 有金をさらけ出して高い値段でボタモチを買つて食べた

腹は出來た 下山だ

神殿場口から降り初めたら鞋が切れた 足が痛み出した 暫く休を引きずるやうにして汗と霧の中を初めて頂上に着いて ふり返つて衣を千万 見たら 遠く裾野の湖を望めば あ谷にふるひ 白雲の晴れ間 川へ着いたら 必ず家から送りますからお貸し下さい」と嘆願に及んだ所 驛長は心よく貸して呉れた

切ぶを買つてホツトしてゐた赤帽が來て一等室のお客 貴方を呼んで居ます」と云ふから導かれるまゝに行つて見たら 人品卑からざる白髮の老人が

「君は金に困つてゐるのです ね」と云つて微笑ながら壹圓札を私の手に握らせた私は無性に嬉しくなつて遠慮なく親切を受けた 名前を尋ねたが只笑つて答へ

だから全治までに可なり時間を要するであらうとのことである

尙市内のラヂオ放送局からは同夜「著名なる日本人畫家矢崎氏の奇禍」と題し詳細に放送したが翌日の各新聞でも同樣詳報して居た

思ひやりからである 尤もかうした法律が出來るまでには まだ數年を要する見込みであるが それまでどうするかといふやうなとも問題となつたので 司法省行刑局としては現在監獄法の許す範圍において改正法の主旨を體し 着々自由接見とか 所外殺の陰謀者は 説明するところに依れば 暗の散歩とか出所前外出用便作業の自由選擇などゝ云ふことを許す方針であると

又もムツソリニ
暗殺の陰謀

【ローマ發】イタリー首相ムソリニ氏暗殺の陰謀が露見したと 昨今頻りに風評されつゝあるが 右に對して當局は 無政府主義者にして 久しく南アメリカ地方を放浪してゐたシルルと云ふ男で アメリカ政府の旅券を僞造して故郷へ密歸國したものらしく 同報に接した警察では各地に亘り嚴重に警戒の網を張りつゝあつたが 偶然にもローマに潛伏して居るのを發見されたもので

彼は二個の强力なる爆裂彈を所持し居り 警察へ連行の途上 警官五人に發砲し 三名を傷け（その一人は病院に收容後死亡）自ら銃口を口に當てゝ自殺 計らずも弾丸は外れて微傷を蒙り 目下警察病院に收容中であるが 當局では他に連累者ある見込で目下頻りに探査中である

犯人は極端なる無政府主義者として知られて居るが 所持して居る旅券が果して僞造であるか警察では言明せず 秘密裡に調査の歩を進めてゐる

社告

社員 皆本茂春

右今回ソロカバナ及びパウリスタ方面を巡回致させます 愛讀者各位の御配慮をお願ひ申上ます

三月十二日

南米新報社

ソロカバナ
パウリスタ
讀者各位

CASA TOZAN
MIZUKAMI & CIA.
COMMISARIOS
Rua Cidade de Toledo, 25 — Caixa Postal, 911
Telephone, 2837 — Endereço Telegraphico "TOZAN"
SANTOS

Dr. H.saito
BAURÚ
MEDICO
醫學士
等藤齊
五三一六 街アシンデイフンコンイ ールウバ

Dr.K,Daian
ARAÇATUBA
大庵喜八
【大原商店隣】パーツサラア

PROF. DR, MIROSLAU
BAURÚ
Beneficencia Portugueza
科外一一科内
ミロスラウ博士
ールウバ

サントス市
珈琲コミサリオ
カーザ東山
ミヅカミ イ コムパニヤ
郵函 九一一
電話 セントラル 二八三七
電信略號 TOZAN
▲弊店取引方法は御照會次第御回報申上候

BANCO ESPECIE DE YOKOHAMA, LTD.
(THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.)
RUA DA CANDELARIA NO. 23
CAIXA POSTAL, 380-RIO DE JANEIRO
リオ・デ・ジヤネイロ
横濱正金銀行支店
切り取りて手紙の表にはられたし
金送里郷
一、御送金の伯貨は當店にて受取たる當日の爲替相場にて日本金に換算可仕候
二、日本内地郵便爲替料、書留料其他總て當店にて負擔致し即ち全く無手數料にて御地里の受取人へ送り届け申上候
三、金子は現金封入、郵便爲替又は銀行小切手にて當店へ御送り被下度翻横濱正金銀行御定として
Banco Commercial do Estado de São Paulo
又は御便宜の方は
Banco Noroeste do Estado de São Paulo
へ御振込被下候ても差支無之候
四、何れにしても送金申込書は必ず忘れず當店へ御送り下されたく候
金預
日本貨定期預金利息 六ケ月以上年四分五厘
伯貨定期預金利息 六ケ月以上年四分五厘
伯貨當座預金（小口） 年四分五厘
▲預送金用紙は御請求次第直に御送り可致御不審の點は御遠慮なく御問合被下度候
▲預金通帳は書留郵便にて御送付可申上候
間御申込の際最寄郵便局御指定相成り候はば御便宜に有之候

CASA TOZAN
Commissario de Café em Santos
REPRESENTANTE GERAL DE NOROESTE
S. Masaki
Promissão L. Noroeste
間崎三三二一
各地代理店
ノロエステ線總代理
珈琲を引受け販賣等一切の御商談に應じ申候間左記各位に代理店指定仕り候に付御便宜御用命被下度候 敬具
リンス 森部一衛
上塚第二植民地 羽高權藏
グヤイサウ 佐藤由
ベンラ 田中龍介
グランタン 村上茂人
バウルー 芳賀仁吉
アラサツーバ 藤田實
謹告
各位益々御多祥之段奉賀候 陳者小生今般サントス唯一の邦人コミツサリオ
カーザ東山

猫が喰つた話

不鳴樓主人

（一）

飛田頓吉は土地買の話で四、五日前から町へ出て居た何時もの癖で一杯呑むとツイ氣が大きくなり　バカブンドド仲間に誘はれると　持前の詰らない俠氣を出して　懐にあつた三コントスの金をスツカリ賭博にハタイて仕舞つた

これぞ　モー一年汗で稼いだアロイスの金は奇麗にフイになつた

こうなると　驚度胸が据るものじ　またおつかけに今度は太く三四コントスを張つて見たが　無論　酒にゑふた上のやけ賭博では所詮勝目はなかつた

結局十コント近くのベルデをして　とう〳〵自分のシチオを抵當にレツトラを書かされた

向ふ意氣の強い飛田ではあるが　此時ばかりは頭から水を浴びたやうに　ゾツクリと胸に應えた　土地を買ふつもりで出かけたのが　あべこべに土地賣りになつて仕舞つた

あゝ詰らない眞似をしたものだ　俺と云ふ男は何んてまあ意志の薄弱なものだらうそれより此の事が家の山の神に知れたら：：それこそ大變だ　生れつき口程ぢもない飛田は急に家へ歸つてからの言譯が心配になつて來た

その翌朝飛田頓吉は女房の好きな赤貝の鑵詰と　子供の帽子を一つの手土産に　二十キロの道をカミニヨンに乘つてシオ〳〵と歸つて行つた

▽　△

「おい　おけさ　今歸つた」パパイの聲を聞きつけた子供は土いじりでもしてゐたのか顔中泥だらけにしてボルコのやうな格好で飛んで來た

「ママイ！　パパイが歸つたよ」

と　大きな聲でクル〳〵と眼玉を廻してゐる

「健坊！マゝイゐるかい」

と小さい聲で　それには

「ウン」と云つただけで

「パパイ　シヤベオ買つて來た？」

子供は現金なもので　パパイの心配なんか一寸とも考へず臭れない

「ウム　買つて來た　これマゝイに持つて行け！」

頓吉は　提げてゐた風呂敷包みを健坊に渡してメーザの前に來て　グツタリとバンコ腰をかける

何時もの喧し屋の山の神が飛んで來て　なんぞかだと町不思議と出て來ない

水汲みにでも行つてゐるのかナ　それとも：：：：などゝ頓吉はメーザに頬杖ついてコジンニヤの方に聽き耳をたてた　ガチヤ〳〵食器を洗つてゐる樣な音がする

「やつぱり居るな：：：」

頓吉は口の裡でつぶやいて

と　おけさの聲で

「何じやいそれは　赤貝！フン馬鹿にしてら子供だましに：：：」

今日は何んだか風向が悪い

頓吉はギクリとした

ヒヨツトすると　もうおけさの耳へは入つてゐるのではあるまいか　此前女郎買ひに交際つた時も　誰から聞いたか　おけさは早く知つてゐて散々油を絞られた　これは困つた事になつたわいと頓吉は苦しい吐息をした

何んとか御機嫌をとらずば

と　此度は猫撫聲で

「おい　おけさ居るかい」

それには何の返事もなかつた

頓吉も一寸ムツとした

「おい飯を持つて來んか！」

社頭雪

御製

ふる雪にこゝろきよめて安らけき
世をこそいのれ神のひろまへ

皇后宮御歌

みやしろの鳥居につもる白雪を
つはさにはらひ鳩のとひたつ

皇太后宮御歌

たきの音もかすかになりて神垣の
那木のあを葉に雪そつもれる

青年論壇

特殊國　特殊人か

岸本次男

日本人の誰もが一等國民と誇り自尊心を強く抱いてゐる自分達の子供――ブラジル生れの子供の爲には　例令ブラジルどうあらと　ブラジルは彼等のパトリアである

多くの在住日本人は此の自分達の運命の開拓に來てゐるブラジルを　一等下に見下してポルカリアの國と呼び　二等國と稱して　優越感を強く燃して居る

勿論其の優越感があれば自信も出來　確乎とした事業も出來て來るが　其の自尊心があればこそ自分自身のカルチユアを保ち品性を高むることも出來るが　果して彼等の日常生活は　ポルカリアの組　他の外國人のそれに比して　その外國人のそれ程優れてゐるだらうか

茲に至つて私は屢々日本人社會を疑ひたくなる　教養の淺い伯國人　下級な歐洲移民に比して其のポルセンタジエンから見たならば　日本人は確に信念を裏書し得るだろう

然し多くの除外例を餘りに多く見せつけられ　特例を餘りに多く聞かされる事は　決して愉快なことではない

教養の少ないポルカリアの伯國人　他の外國人と　果して日本人の一分子が　どれ丈優れてゐるか　然も一面に強い優越感を發揮するものに限つて　彼等は平然として自分自身の自尊心を傷けつゝあるように　頓吉は振り返つてやつとこれ丈け言つたが後に言葉が出なかつた。【續く】

藤村名詩

ヤシの實

名も知らぬ遠き島より
流れ寄る椰子の實一つ

故郷の岸を離れて
汝はそも波に幾月

舊の樹は生ひや茂れる
枝はなほ影をやなせる

われもまた渚を枕
孤身の浮寢の旅ぞ

實をとりて胸にあつれば
新なり流離の憂

海の日の沈むを見れば
激り落つ異郷涙

思ひやる八重の汐々
いづれの日にか國に歸らん

▽―〇―△

國民黨員を即時放免す

各教徒先覺者協議を重ぬ　印度自治に就て

【八日ニユー　デーリー發】ガンヂ印度の豊雄マハトマ　ガンヂと印度副王との會見後　黨首ガンヂ氏の要求を容れて　先づ反英運動に參加した爲　牢獄に繋れてゐた國民黨員三千名は即時と釋放されたが　その中にはガンヂ黨員一方の旗頭として指揮採配を振つてゐたアブズル　カフアー　カンもまぢつてゐた

【八日ニユー　デーリー發】ガンヂは印度自治問題に就て　回々教徒達と協議を重ねてゐるが　來る十九日には全回々教徒の先覺者らと一大會議を開く筈である

全印度は今回の協調に對して　デリー　カルカツタ地方の學生　ボンベイの職工等を除く外殆んど贊意を表してゐる

ガンヂ黨の反英運動のモツトーであつた外國品使用及販賣禁止法を解いた（寫眞は去る一月廿九日ポーナ監獄より出獄直後のガンヂ氏）

詩　鈴蘭

綾子

なつかしき友の玉章
手にとる暇ももどかしく
封切れば
かぐわしき香と共に
パラ〳〵と
こぼれそ落ちぬ鈴蘭の花

驚喜して文も花辨も
半ば〳〵に
忙しく讀みけるに
輪郭のあやしくくづれ
遂に顏おほひぬ

里遠き清き谷間に
咲きし身の
宿世のえにしか佳き人の
かぼそき指に手折られて
百の言の葉身に負ひつつ
はる〳〵渡る旅の道

クリームに頬のあせしは
旅のつかれか將又は
故郷戀ふてやせたのか
されどよく聞け鈴蘭の花
此處はコーヒーの花匂ふ
綠の國よ

吾れも等しき旅の鳥
共に語らひ暮さなむ
共に仲良く暮らさなむ

友の言葉

進一

砂を齧め
一握の砂を齧まないか
餘りの惱ましさに
やゝもすれば
奔放に走らんとする
わたしの心に

きりて　靜かに寢むる街の灯

雨降りて土のかほりも新しく　おぼろに浮ぶ街の灯

よひ闇に街の灯包まれて
やみじを急ぐ旅の人かな

母ねます彼の君ねます故郷に　心を歸す街の灯

旅の空街の灯なつかしく
過去を偲ぶ故郷のそれ

雨の夜や灯ならぶあの街に　母ねまさぬを淋しく思ふ

雨そゝぐ街の灯しんみりと　シヤミの音慕ふ「ぎおん」の夕べ

郷子の葉に雨降りしきる
旅の空　シヤミの音流る
心地もどかし

日暮れ時街の灯涙に濡れ
そ　シヤミの音戀し旅の
ひとり寢

春やいづこに

かすみのかげにもえいでし
糸の柳にくらぶれば
いまは小暗き木下闇
あゝ一時の
春やいづこに

色をほこりしあさみどり
わかきむかしもありけるを
今はしげれる夏の草
あゝ一時の
春やいづこに

梅も櫻もかはりはて
枝は綠の酒のごと
よふてくづる夏の夢
あゝ一時の
春やいづこに

街の灯

リオ市　松本たか子

細雨に日も早や暮れて旅
ごゝち　いやまし募る街
の灯

雨の夜や風も谷間におさ

和歌

アカツカツカツ